2020年11月15日

第8回 全国外大連携プログラム 通訳ボランティア育成セミナー

報 告 書

主 催

全国外大連合

開催日程

2020年9月2日（水）～4日（金）

開催場所

オンライン開催（神田外語大学より配信）

特別協力

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

協賛

アシックス

目 次

1. セミナー概要 ･･･p.3
1-1 大学別の事前申込者数と受講者数
1-2 学年別受講者数
1-3 対応可能言語
1-4 第1回～第7回までの受講者数推移
1-5 大学別の人材バンク登録者数

2. 学生の参加動機 ･･･p. 6
2-1 参加目的
2-2 参加へのきっかけ

3. 参加後の自己評価 ･･･p. 7
アンケートによる集計

4. 各講義内容について ･･･p. 9
講義名
講師名
参加者課題『講義レポート』より

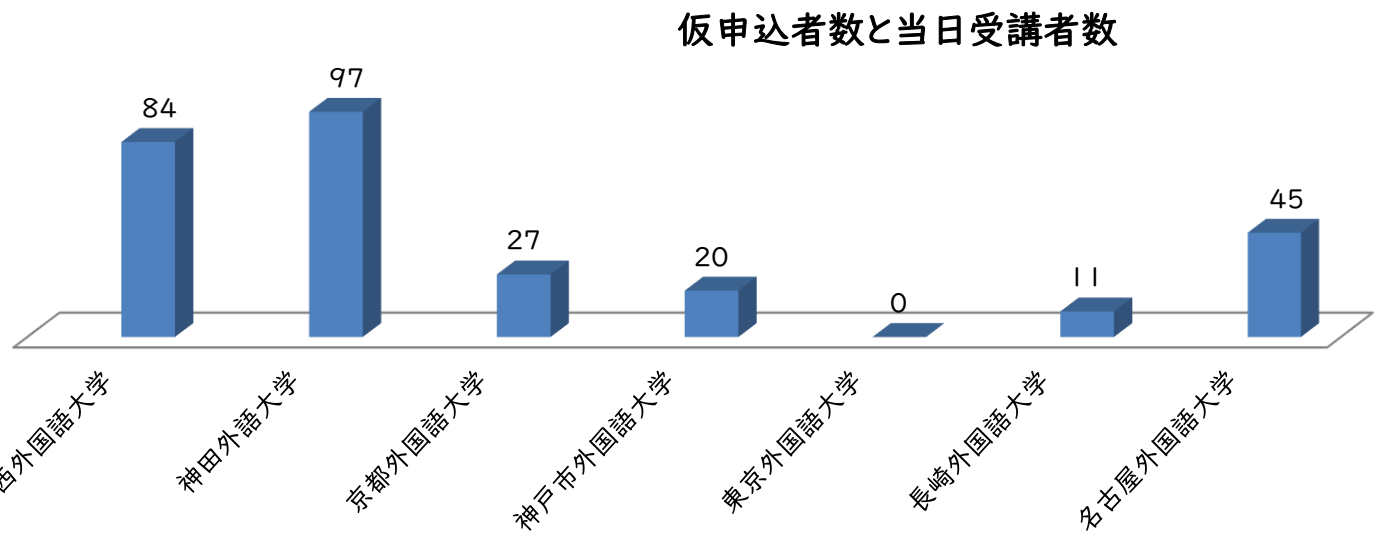
5. セミナーの様子（写真） ･･･p. 22

1. セミナー概要

1-1 大学別の仮申込者数と受講者数

単位：人

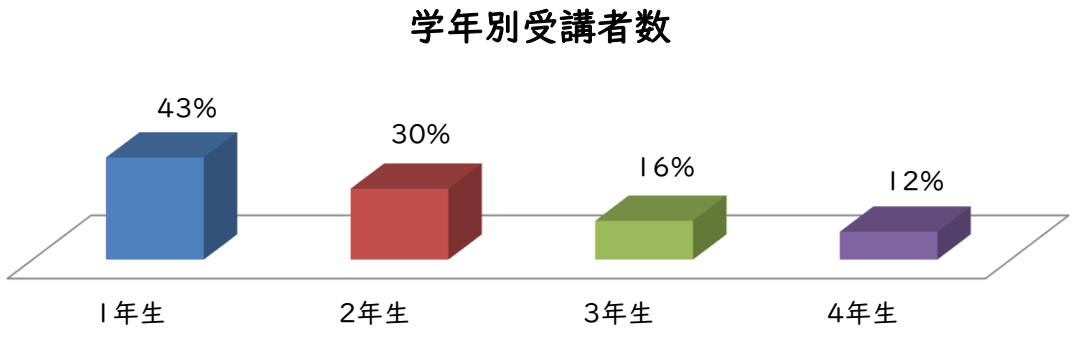
大学名	募集枠（英語）	募集枠（英語以外）	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	150（当初の定員）	初オンライン開催により多言語による枠は設けずに募集	84	72
神田外語大学			97	80
京都外国語大学			27	25
神戸市外国語大学			20	18
東京外国語大学			0	0
長崎外国語大学			11	6
名古屋外国語大学			45	41
合計	150	-	**284**	**242**
	150			



1-2 学年別受講者数

単位：人

大学名	BASICコース		INTERMEDIATEコース		大学別計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
関西外国語大学	31	13	20	20	84
神田外語大学	61	25	6	5	97
京都外国語大学	9	7	11	0	27
神戸市外国語大学	3	11	4	2	20
東京外国語大学	0	0	0	0	0
長崎外国語大学	0	9	1	1	11
名古屋外国語大学	17	19	4	5	45
学年別計	**121**	**84**	**46**	**33**	284

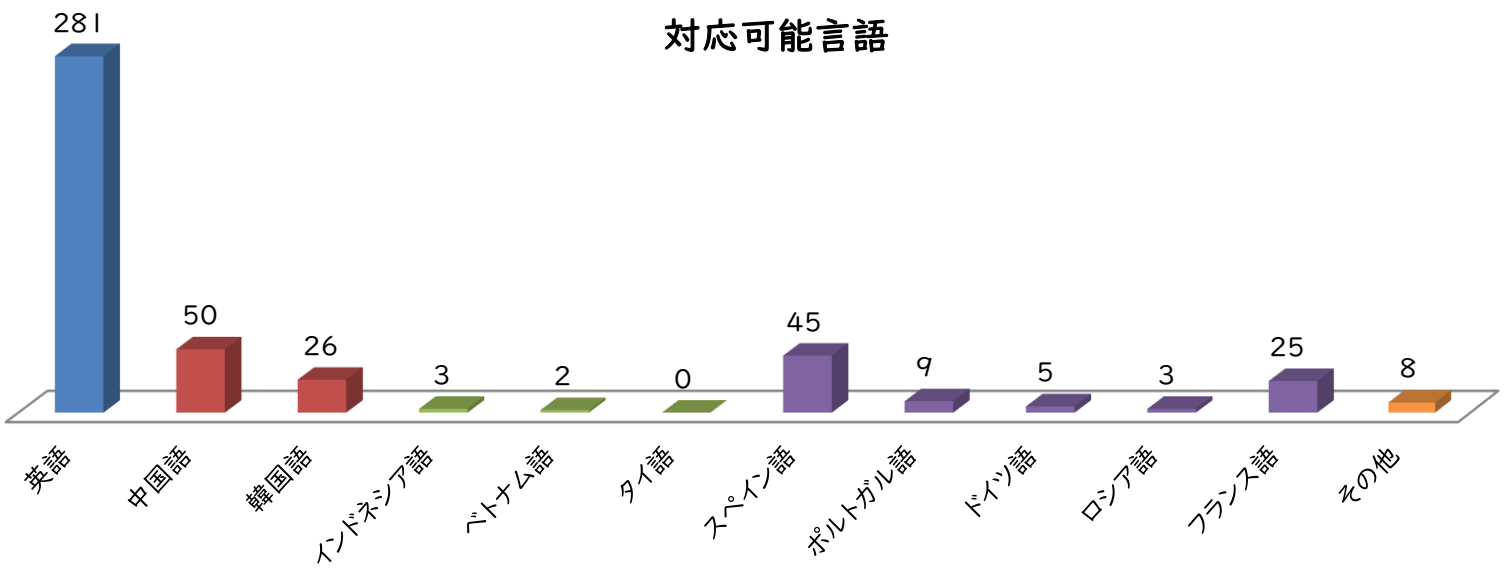


1-3 対応可能言語

単位：人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
281	50	26	3	2	0
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
45	9	5	3	25	8

※受講者の対応可能言語内訳を示す。



1-4 第1回～第8回までの受講者数推移

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	各大学 総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	24	28	84	296
神田外語大学	119	120	220	17	221	324	121	97	1239
京都外国語大学	27	21	54	60	55	24	36	27	304
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	3	3	20	52
東京外国語大学	6	1	0	0	4	0	0	0	11
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	26	9	11	142
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	23	10	45	205
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	424	207	**284**	2249
受講者数推移（延べ数）	236	433	800	978	1334	1758	1965	**2249**	

1-5 大学別の人材バンク登録者数（第1～8回開催分総計）

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	各大学 総登録者数
関西外国語大学	27	24	29	39	33	22	22	72	268
神田外語大学	106	111	204	4	159	281	90	80	1035
京都外国語大学	27	21	53	47	49	23	25	25	270
神戸市外国語大学	9	4	5	6	0	3	3	18	48
東京外国語大学	4	1	0	0	4	0	0	0	9
長崎外国語大学	20	13	25	6	18	25	6	6	119
名古屋外国語大学	26	14	30	24	19	23	10	41	187
回毎の登録者数	219	188	346	126	282	377	156	**242**	1936
登録者数推移（延べ数）	219	407	753	879	1161	1538	1694	**1936**	

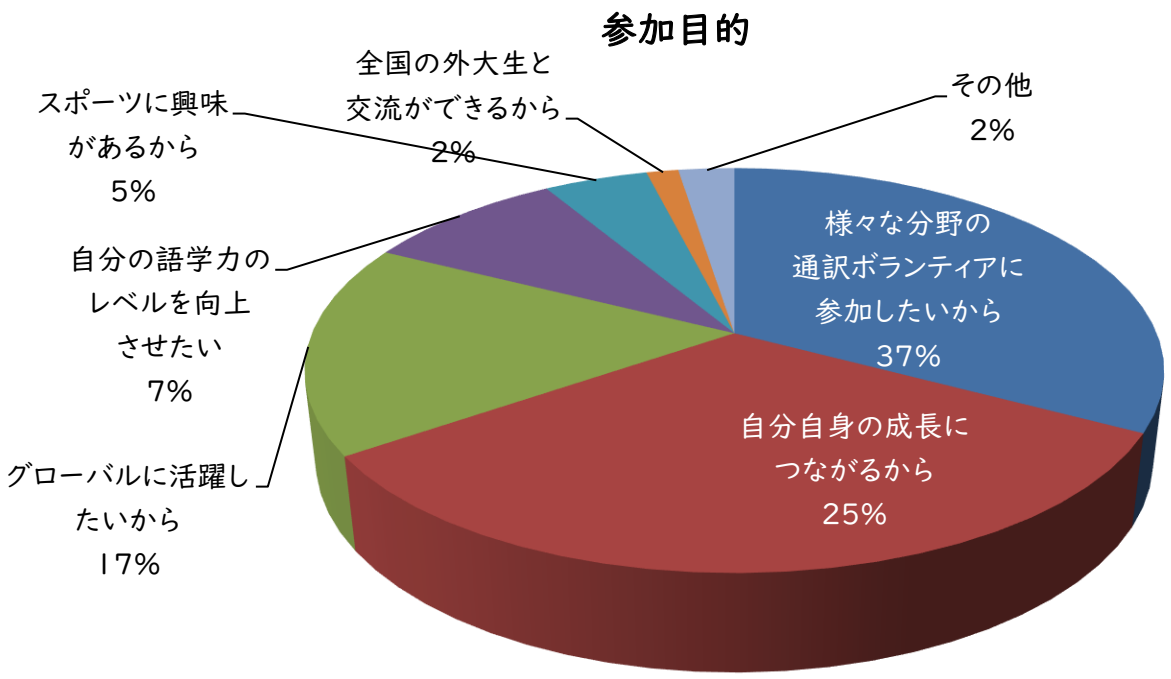
2. 学生の参加動機

2-1 参加目的

単位：人

参加目的	回答数
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	91
自分自身の成長につながるから	91
グローバルに活躍したいから	47
自分の語学力のレベルを向上させたい	25
スポーツに興味があるから	13
全国の外大生と交流ができるから	4
その他	7

回答者数：278人

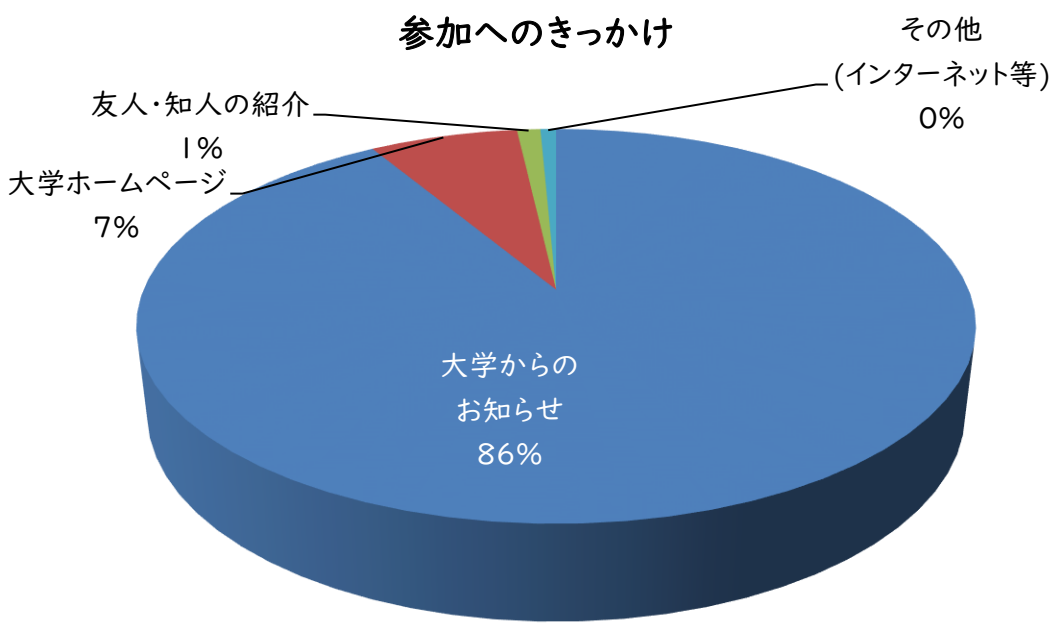


2-2 参加へのきっかけ

単位：人

参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	254
大学ホームページ	19
友人・知人の紹介	3
新聞記事	0
その他（インターネット等）	2

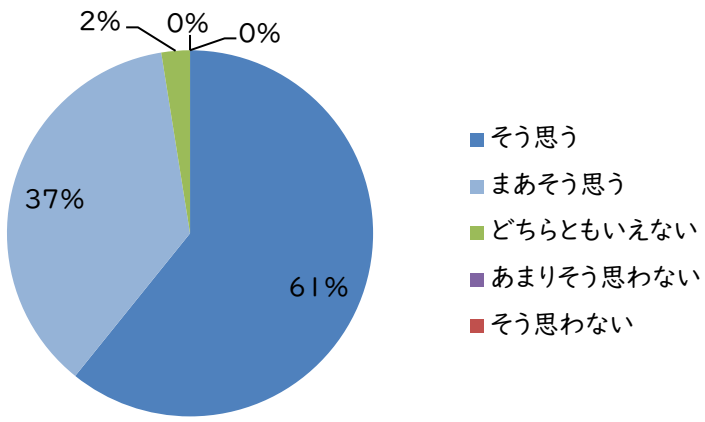
回答数：278人



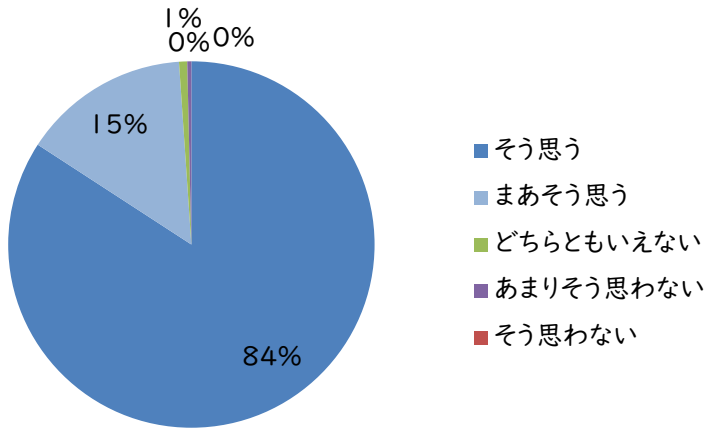
3. 参加後の自己評価 ― アンケートによる集計（単位：人）

回答者数：278人

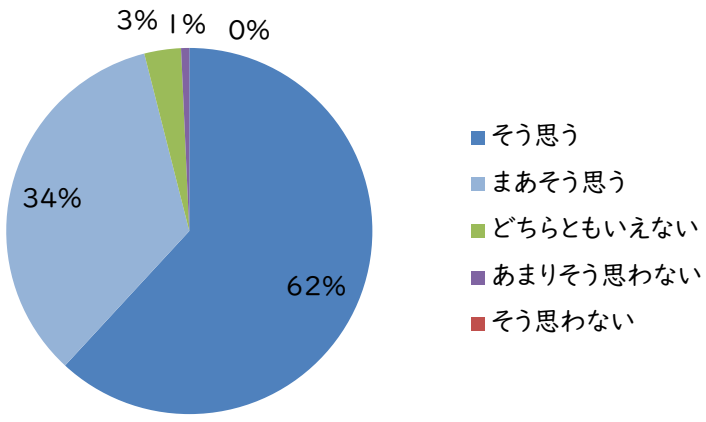
1. セミナーを受講してグローバル人材とは何かそのために何をすべきかが明確になった



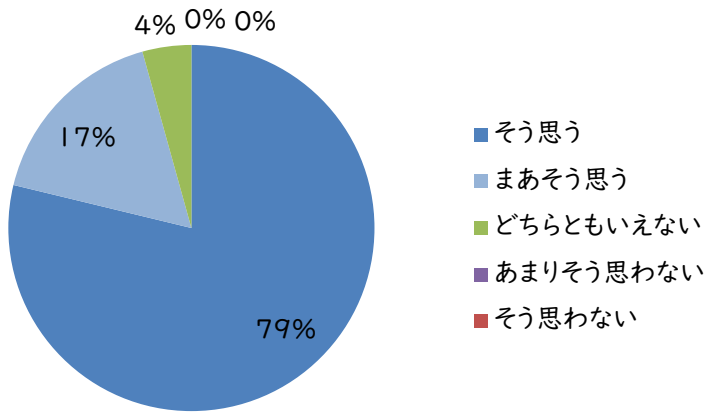
2. 語学力とコミュニケーション力の必要性ついて学ぶことができた



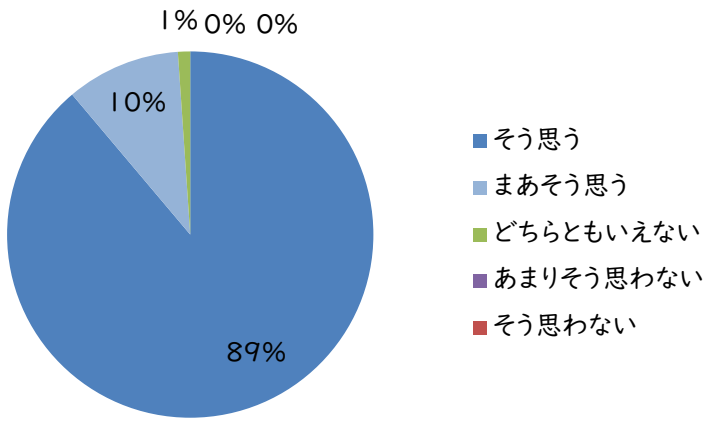
3. スポーツを取り巻く多様な分野や専門知識の理解が深まった



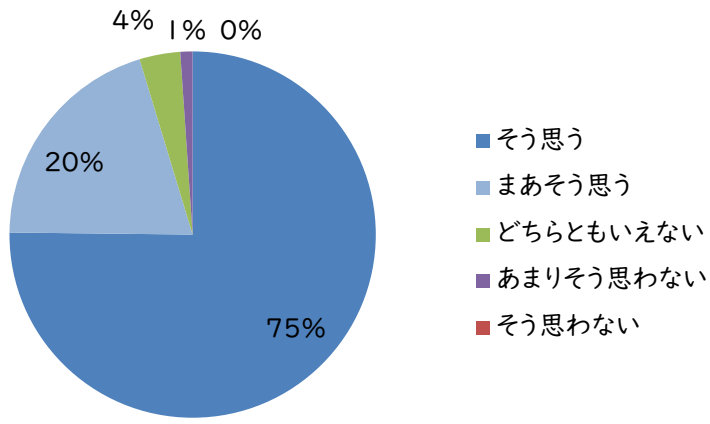
4. 参加する前より語学を学ぶ意義と学習意欲が高まった



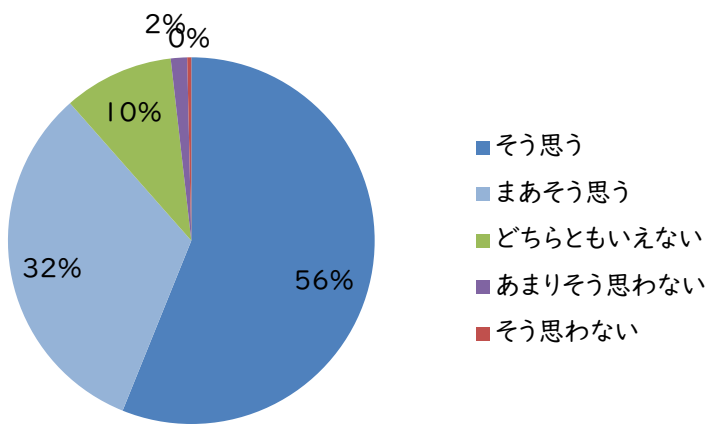
5. 今後、通訳ボランティア実践や様々な活動に今より積極的にチャレンジしてみたい



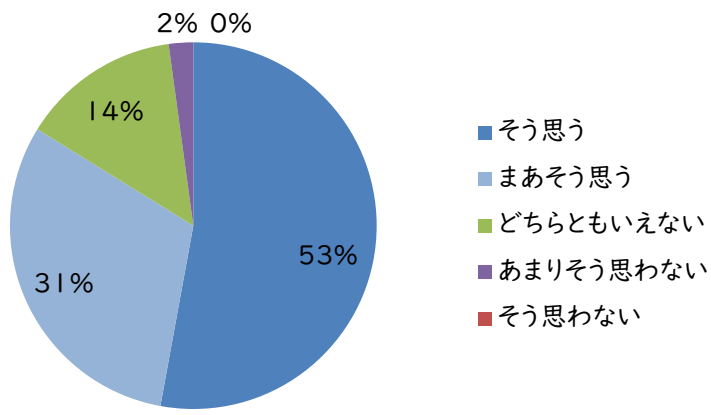
6. 受講前よりスポーツを通じて異文化・国際交流に興味が湧いた



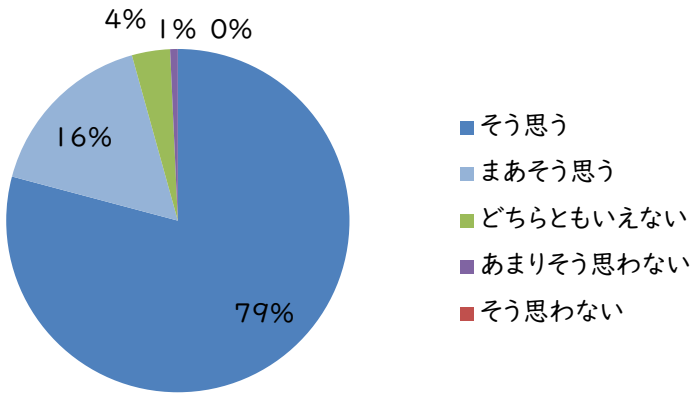
7. 日本人としてのアイデンティティについて考えるようになった



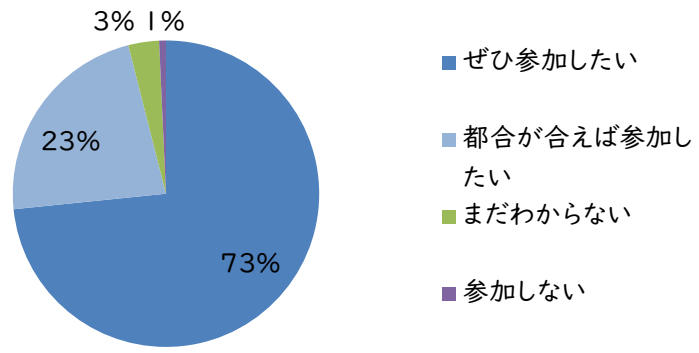
8. 自分の興味・関心がある分野に気付き、新たな自分を発見した



9. このセミナーを受講して満足している



10. 来年開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に通訳ボランティアとして関わりたいか？



11.『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答内容

回答内容	回答件数
有意義な3日間だった、楽しく学べた、貴重な時間、満足	82
新たな気づきがあった、刺激があった、視野が広がった	41
普段関わることのない方の講義や経験ができた	26
オンラインによるセミナーが良かった、オンラインにより参加しやすかった	20
様々な外大生との交流が深まった	15
通訳ボランティアに参加したい、グローバルに活躍できるよう努めたい	15
積極的に学ぶこと、行動することの大切さを知った	13
ボランティアに興味、意欲がわいた、モチベーションが上がった	13
セミナー運営が円滑だった	11
他大学の学生ともっと交流したい	8
学生生活、キャリアなど今後に活かしたい	8
将来について考える良い機会となった	7
実践・実用的な講義や通訳の実践演習等がほしい	11
次回は対面、実地開催をしてほしい	6
ブレイクアウトセッションがもっとほしい	3
アイデンティティーについて考える機会となった	3

※上記「回答内容」に当てはまる回答を「回答件数」としてカウント。　　回答件数合計：282件

12.受講生のまとめレポートハイライト

セミナーについて

- 自分の語学力を活用して人の役に立ちたいと思っていたのでこのセミナーに参加しました。
- どれも私の夢に直結することばかりなので全ての講義に参加し積極的に反応しました。
- 今後は今回のセミナーで学んだことをしっかりと吸収し各分野について細かに学んでいきたいです。
- 今回はオンラインということで自分のネットの不具合などもありましたが、非常に有意義な3日間でした。
- 今回セミナーを受講してみて、多くの人が通訳に関心を持っていることを知った。
- この全国外大連携プログラム通訳ボランティア育成セミナーに参加して本当によかったと思っています。
- 人生観に影響を与える素晴らしい講義をしてくださった方々、また事務局の皆様3日間ありがとうございました。

今後の展望について

- 実際にボランティア活動に参加した際には今回のセミナーで学んだことを活かしたいと思いました。
- グローバルに活躍できるよう、価値のある人間になれるようこれからさらに努力していきたいと思います。
- 今後もこのセミナーで学んだことをいかして自身の成長に繋げていきたいと思います。
- セミナーを通して様々な経験を積むことや好きなことに諦めずに挑戦することの大切さを学んだ。
- 経験を積むためにこれから通訳や翻訳のボランティアに積極的に応募していこうと思った。
- また、この3日間で学んだことを糧に、スポーツイベントの通訳ボランティアに参加したいと思う。
- 来年神戸で行われるWMGの通訳ボランティアに応募し、今回学んだことを実践したいと思います。
- 実際にボランティアを行うときを見据えて色々な準備をしていきたい。

4. 各講義内容について

9/2(水)	特別ご挨拶
講師	スポーツ庁　長官 **鈴木　大地**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆スポーツ庁長官の方からこのセミナーの為だけにご挨拶を頂いたことを知り、通訳ボランティア、さらに語学力を実際に生かしていくことがいかに期待されているかということを認識させられ、この3日間のセミナーを頑張っていこうという士気がとても高まりました。(神戸市外国語大学・3年生)

◆鈴木長官の特別講演を拝聴し、スポーツの国際大会において通訳はとても重要な役割なのだと再認識しました。今は、テクノロジーの発展や国際化によって、いつでも、誰でも、知らないことを調べ、直接現地に赴かなくても世界のあらゆる情報を手に入れられる時代です。海外で、その国の言葉を知らなくても、スマートフォンの翻訳機能を使えば生活できてしまうような時代です。その様な今の状況でなぜ通訳は必要なのだろうかと考えていました。実際にスポーツの大会の現場を知る鈴木長官から、国際大会を開催するには通訳やボランティアの存在が不可欠だというお言葉を伺えて、その必要性を強く感じました。(関西外国語大学・3年生)

◆私は鈴木大地スポーツ庁長の講演を聞いて、自粛期間が続く今、この三日間のセミナーを受ける意義を改めて感じました。その理由は、セミナーで学んだことを東京オリンピックに活かすことができるからです。本来であればこのセミナーはオリンピックの後に開催予定で、セミナーで学んだことは他のイベントでしか活かすことができなかったと思います。2021年のオリンピックに向けて学ぶという明確な目標が見えた気がしました。通訳技法などの講義が始まる前に鈴木庁長の講演を聞くことができたおかげで、身を入れて学習に取り組めたと思いました。(神田外語大学・1年生)

◆この講演では、個性とは何かを理解し、自分の課題を見つけることが出来た。私が印象に残っているのは、「日常に関係を耕す」という言葉である。日々何気ないところで出会いがあり、長く付き合っていく可能性もある。今回のようなボランティアや様々なイベントに参加し、新たな出会いを見つけるのも大切である。また、大学の先生や友人、バイト先の人といった身近な人とより良い関係を築くというのも重要だと感じた。相手にどう見られているかを意識し、話の引き出しを増やし、人間力を磨いていきたいと考えた。(長崎外国語大学・2年生)

◆通訳ボランティアセミナーが始まる前に鈴木先生から、コロナ禍の今の状況だからこそ、若い世代の私たちがスポーツの意義、オリンピックの必要性を改めて考え直し、このセミナーを通じて成長してほしいとのお言葉をいただきました。この言葉を聞いてとても気が引き締まり、3日間のセミナーを、今までの自分を見つめなおし、これからの目標や展望を決めていく機会にしようと強く思いました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆1番初めに、スポーツの素晴らしさや今後の大会におけるボランティアの重要性について話していただきました。そしてこのお話を聞いたことで、通訳ボランティアに対する意欲が高まり、今回のセミナーに対する学習意欲が高まりました。スポーツの大切さ、重要さを学ぶとともに一つ一つの授業が今後のボランティアをするときの糧となると再確認しました。また、来年に延期となってしまったオリンピック、パラリンピック大会でもぜひこのセミナーの経験を生かし、機会があれば積極的にボランティアに携わりたいと思います。(神田外語大学・4年生)

◆イベントの成功にはボランティアが必要であるとおっしゃっていて、講義を受けるに向けて非常にモチベーションが上がりました。今年は、コロナウイルスで国際大会の開催が難しいかもしれないけれど、今後国際メガスポーツ大会の開催が数多く予定されている中で、今回のセミナーを自分にとって大きな収穫を得ることができるようにがんばろうと思えました。(関西外国語大学・4年生)

◆国際的なスポーツ大会においていかにスポーツ通訳ボランティアの活動が大切で必要とされているのかが分かった。この新型コロナウイルスの影響で思うように活動できない中でも、今自分にできることを見つけてめげずに行動していかなければならないと思った。そして、これから再び国際的なスポーツ大会が開催されるようになったときに少しでも力になって、一緒に盛り上げていけるように成長したいと思った。(神田外語大学・1年生)

9/2(水)	オリンピック・パラリンピックの歴史
講師	筑波大学 教授 **真田 久**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆オリンピックの歴史は世界史などで少し触れてきたため、知っていることも多々あったが、パラリンピックは初めて知ることが多くとても勉強になった。元々、車椅子のみの種目が、様々な障害を持つ選手が参加できるように種目の幅を広げたことが今のパラリンピックにつながっていることを知った。また、東京大会が復興と昔から関連していることを知ることができた。そして、オリンピックパラリンピックはバラバラな世界が一つになれる大切なものだということも学んだ。だからこそ、コロナウイルスの影響で延期になっても東京でオリンピックパラリンピックを開催させなければならないということがわかった。(神田外語大学・1年生)

◆オリンピック・パラリンピックはただのスポーツ大会ではなく、古代から戦争と疫病からの復興を願って行われるものだということが分かりました。日本で行われた大会も全て何かしらの復興を掲げており、1940年の大会は関東大震災、1964年の大会は世界大戦からの復興、そして2020年大会は東日本大震災からの復興を遂げたことも象徴するような大会にすることとされていました。しかし、残念ながら2020大会は新型コロナウイルスの影響で1年間延期されてしまったため全世界を襲ったコロナウイルスのパンデミックから解放された世界を象徴するような大会が来年開催できれば、元の日常を取り戻したことを表す素晴らしい大会になると思います。また、パラリンピックはスポーツの楽しさや友好に影響を与えるだけでなく、身体に困難がある人のリハビリにも多大な影響を与えることが分かり、スポーツの可能性を改めて感じることができました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆私はオリンピックとパラリンピックの歴史について知らず、この講義を受けて、どのように出来たのか、何のために行うのか知る事が出来たので本当に良かったと思いました。2020年オリンピックの課題や最先端技術を使った新しいオリンピックの在り方を勉強することができ、とても楽しく感じることが出来ました。現状のコロナの対策としてもいろいろ考えさせられましたし、本当に私にとってためになる講義でした。(関西外国語大学・2年生)

◆オリンピック・パラリンピックの歴史を学びました。パラリンピックは第一回大会が1960年と、最近だったことに驚きました。それに対し、オリンピックは1896年が第一回大会だったということで、長い歴史があることがわかりました。また、東京大会は復興と関連しているということを知り、興味深かったです。1940年は関東大震災からの復興、1964年は世界大戦からの復興、2020年は東日本大震災とパンデミックからの復興と、人々を苦しめる大きな出来事の後にオリンピック・パラリンピックが開催されることには大きな意味があるなと感じました。オリンピックの原点として、「疫病と戦争からの復興」があるとのことなので、東京2020大会も来年無事に開催され、復興の象徴となれば良いなと思いました。(関西外国語大学・2年生)

◆生まれた時から当然のようにあった、オリンピックとパラリンピックがなぜ、どのようにして誕生したのか、考えたことがなかったので非常に勉強になりました。なかでも、東京パラリンピックに参加された方々の言葉が印象に残りました。この世界は誰しも主役であるのに、彼らはパラリンピックに参加していたときに自分たちが主役だと感じることができたという点です。彼らが、日常生活において必ずしも困難があるなかで、障害を抱えていても一人一人が輝いて生きることができるようになるために、我々が行動を改めていかないといけないと感じました。(関西外国語大学・4年生)

◆オリンピックの起源の話を聞き、1200年間続いた古代アテネでのオリンピックの起源が戦争の疫病から逃れるためのものであったということを聞き、それが今回の東京2020大会でのコロナウイルス蔓延と繋がるとも考えられる、という話が印象的だった。大会モットーもUnited by Emotionであるということを知り、ボランティアとして参加するのであっても、その大会の開催の意図や目的を認識した上で何ができるかを考えることが大切なのではないかと考えさせられた。(神戸市外国語大学・2年生)

◆オリンピックの歴史は、学んだことがあったがパラリンピックについてはなかったため新たな知識を得れた。「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ。」という言葉が今の生活と重なり心に響いた。その現状を最大限に活かすことが、大事なのだと痛感した。(関西外国語大学・2年生)

9/2(水)	2019ラグビーワールドカップを振り返って
講師	神田外語大学 ボランティアセンター客員教授 **徳増 浩司**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆It's ability and not disability that counts.(失ったものを数えるのでなく、残された可能性を生かそう。)という言葉が響いた。障害者を含めた社会実現を目指さなければならない。(京都外国語大学・1年)

◆パラリンピックについて豊富な知識を持ち、いろいろな資料や映像を交え、様々な視点からパラリンピックの話をしていただいた。特にオリンピックと比較しながらのパラリンピックの歴史・軌跡を聞くと、当時のオリンピックを知るものからすれば、ずっと昔からあったパラリンピックも、知名度が出てきたのはごく最近のことなのだと理解できた。(神戸市外国語大学・2年)

◆競技によって参加できる障がいが決まっており、障がい者全体から見た病状全部が対象になっていないことを知った。意外だったのは第1回大会のローマ大会の次に第2回が東京で開催され、日本チームがリハビリのつもりで参加したらスポーツにより体力の回復、精神状態も良くなり、前向きになり、自分に自信がつくことが何よりの功績になるということだった。
私はパラリンピックスポーツの素晴らしさを知り、どんな重い障がいがあってもルールの工夫と私たち健常者のサポートがあれば、社会のバリアを減らした世界が実現できると思った。(名古屋外国語大学・3年)

◆元ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長特別補佐、神田外語大学 ボランティアセンター 客員教授、渋谷インターナショナルラグビークラブ会長 と華々しい地位におられる、徳増浩司さんにお話を聞けてまずは光栄でした。オーストラリアの15歳の少年についての、お話はとても感動しました。何度も何度もコンタクトを取ってきて、この子は違う、って思えるほど、情熱がその子にはあったんだろうなと思いました。また、日本人の男の子が外国人の子供たちに混じってラグビーをしていたけれど、英語を話すことが出来なかったから、黙っていたら、ボールすら回ってこなくて、けれどその子の父親が日本語でもなんでもいいから声を出しなさいと言って、ハイ!だけでも言ったら、ボールがどんどん回ってきたというお話は、コミュニケーションの大切がわかりました。英語が話せることが出来たら一番言いけれど、話せないからといって黙っていたら、何も進まないし、少しでもコンタクトを取ることはとても、関係もよくなるしいい事だと思いました。試合前のコーチの言葉「Enjoy every minute of your game」これはとてもいい言葉だと思いました。勝つことも大切だけれど、自分が楽しんでいなければ見ている人も自分を支えてくれている周りの人も、楽しくない。楽しんでやっていれば、充実感が残り、とてもいい事だと思った。(関西外国語大学・2年生)

◆徳増先生の講義では、徳増先生が2019ラグビーワールドカップを実現させるためにした苦労と、徳増先生が実際に実践したそれを乗り越えるための手段を学んだ。私は徳増先生の授業で招致活動の厳しさを学んだと同時に、2019ラグビーワールドカップが日本で開催されたことがどれほど素晴らしいことかを理解することができた。徳増先生の講義により、私は、東京2020オリンピックにより一層関心を示すことができた。(神田外語大学・1年生)

◆ラグビーワールドカップはの試合をよく見ていたので、講義全体がとても楽しかった。徳増先生が、ウェールズにラグビーの強さを探りにいった際の大切なことの中で「エンジョイとは自分の力を出し切ること」という言葉が特に心に響いた。また、WC誘致に成功した要因の一つに日本の“おもてなし”精神が挙げられており、それについて英ガーディアン紙は、日本のおもてなし精神は英語に訳せないと書かれていたことを聞いた。海外から高い評価を受けるおもてなし精神を同じ日本人として改めて誇らしく思った。またこの大会でも多くの通訳ボランティアが参加していたと聞き、私も様々な大会や行事のボランティアに参加してみたいと改めて感じた。(神田外語大学・1年生)

◆貴重な実体験を聞けて学ぶ事が多かったです。外国の人はよく”Did you enjoy ~?”と聞き、enjoyとは「自分の力を出し切る事」という話が印象に残り、enjoyという単語の印象が変わりました。私も個性を大切にし、自分の考えをしっかり伝えられるグローバル人材となれるよう頑張ろうと思いました。(関西外国語大学・3年生)

9/2(水)	リベラルアーツとして、21世紀のスポーツとは
講師	神田外語大学 体育・スポーツセンター 准教授 スポーツ通訳ボランティア推進室長 **朴 ジョンヨン**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆「未来は意思が弱い人たちは不可能と呼び、臆病な人々は未知なものと呼ぶ。しかし、勇敢なものには機会(チャンス)だ」という言葉が印象的でした。どんな高い壁でも勇敢に立ち向かい、その機会を逃さず挑戦したいと思えました。今まで知識(知っていること・何を理解しているか、何ができるのか)が大切だとばかり思い込んでいましたが、本当に大事なのは知恵(知っているだけでなく適切に生かす力、できること、理解していることをどう使うか)だと思いました。朴先生の講義にあった知らない土地に行ったり、日頃接しない人に出会うことはもちろん、毎日新しいことに挑戦するなどを通して「多様性」を肌で感じることを大切に、”Live creatively, Die gracefully!”を胸に価値ある人間になるためにまずはChange(変化)から始めたいと思います。ありがとうございました。(神戸市外国語大学・3年生)

◆現代のことを過去に遡って考えることができたのは、とても面白いものでした。特にリベラルアーツ型の教育プロセスモデルで、徳増先生のお話でもあった結果がすべてではなく、その過程が大事であるというものとつながる部分がありました。課題発見、改善計画、実行、結果・評価の繰り返しを行うことの重要性と、結果ばかり重視しないでこのサイクルを行い続けることに意味があり、どう生きるのかが大切で価値のある人間にあることこそが理想であるという考えに感銘を受けました。自分の知識をより一層深く広げることができたなと思いました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆この講義では、スポーツとは何かというところから始まり、その語源や起源、そしてリベラルアーツとは何か、ということを改めて学ぶことができました。特に、私はリベラルアーツと聞いても漠然としたイメージしか持つことができていなかったので、朴先生の講義を通してそれがどのようなものでなぜ私たち人間に必要なのかを学び、自分なりに考えを持てるようになったので良かったです。特に印象に残った「人間は『多様性』を『肌で感じる』ことで成長する」と「知識と知恵の違い（知識は知っているだけ、知恵はその知識をどのように活かし行動できるか）」という教えを常に意識し、自己の成長に繋がるように勉強したり行動したりしていきたいと強く思いました。(神田外語大学・2年生)

◆講義の中で、未来は勇敢なものにとって機会だということを聞いた。そして、毎日何ができるか、自粛中何ができたか、と問いかけられ今までの自分は毎日すべきことを充分にできていなかったと反省した。そしてスポーツを知らない人はいないので、スポーツはグローバルなのだと聞いて納得した。またリベラルアーツの語源や詳しい意味についても学ぶことができた。加えて、リベラルアーツ型の教育プロセスとして、成績より成長の過程を重視することの必要性を新たに理解することができた。(神田外語大学・1年生)

◆朴先生の講義では、いままで聞いたことがあったけれど何を意味するのか分からなかった「リベラルアーツ」について学ぶことができました。また、たくさんの偉人の名言を学ぶことができ、中でも印象に残っているのは『レ・ミゼラブル』の著者ヴィクトル=マリー・ユーゴーの「未来を意思が弱い人達は不可能と呼び、臆病な人達は未知なものと呼ぶ。しかし勇敢なものには機会だ。」という言葉です。コロナ禍の今、未来がどうなるかわからないけれど、私たちは勇気を出してこれをチャンスだととらえて進んでいくべきなのだと思いました。この世をどのように生きるか、どのように社会、世界とかかわり、よりよい人生を送るかを常に考えて生活していこうと思いました。(神戸市外国語大学・1年生)

◆21世紀のスポーツの意義を、educationやsport、liberal artsの語源から教えてくれたことでとても深く理解することができました。特にスポーツの語源は「何かを運ぶ」それは、休息であり、遊戯であることだと知った時は深く感動しました。スポーツを「人を強くするための厳しいスパルタ教育」だと昔は思っていたので、一時期スポーツから抜け出したい時期があったので、過去の自分に「スポーツは愉しいもの 」と伝えたいです。スポーツの語源を知るとスポーツとの向き合い方も変わります。朴先生の講義で大切なことを知れて良かったです。(神田外語大学・4年生)

9/2(水)	SDGsの取り組みと21世紀の教育とは
講師	神田外語大学 准教授 言語メディア教育研究センター長 **石井 雅章**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆SDGsについては以前私のいる大学で扱ったことがあり、今日では様々な製品や会社で利用されており、そしてそれぞれの大まかな意味については知っていましたが、実際にどのような報告書にそのことが詳細に記録されており、そして1－17まであるそれぞれのゴールにさらに細分化されたゴールがあることについてまでは知りませんでした。{Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development}また、SDGsという報告書があるわけではなく、2030年に向けたリオでの会議の報告書の一部にそのことが記されているということをしり、世間で耳にする情報だけではなく、しっかりと自分自身でリサーチをかけ、そして何が求めらているのか、また、様々な事実の裏側にある思惑や考え方といった事実をしっかりと掴み、そしてそれを知った上で、しっかりと行動に移していくことの大切さについて知り、行動に移していきたいです。(名古屋外国語大学・2年生)

◆SDGsについて聞くことが多く、GOALSについては何度か見たことがあったが、今回の講義を受け、まだまだ表面的でそれも一部しか理解できていなかったと感じたとともに、2030アジェンダという重要なものを教えていただき、とても学びになった。経済・社会・環境の3側面を同時に豊かにするという人類が未だかつてなしえてこなかったことに挑戦している現状を知り、一人一人の意識や行動を変えていく必要があると強く感じた。また、特に印象に残ったのは『変えられない仕組みの上では「あり方」を考え直す』という言葉である。「変えられない」と思うと私たちは思考や行動が止まってしまいがちだが、「仕組み」に向けていた視点を「あり方」に向けなおし、考えを止めないということが私には新たな考え方で、非常に学びになった。『持続可能な教育（ESD）』については初めて聞く言葉であったが、時代の変化によって求められる学びも変わることが分かり、21世紀の学びとは、『「持続可能な世界」の担い手として多様な人々とともに生涯学び続けること』だと学んで、学びとは豊かな人生・社会をつくる一つのプロセスだという学びの根本的なことについて知ることができた。(神戸市外国語大学・2年生)

◆わたしはSDGsの全てがこの世の中において最も重要なことではないけど、SDGsを通して、地球に今必要なことや、私たち人間がやるべきことを多くの人がカラフルなロゴだけに目を通すだけでなく、アジェンダや一つ一つの意義を理解し、自ら考えることが大切だと考えた。また今回、「学ぶ」という言葉を深く考えることができた。石井先生が「学び続けることが生涯学習」という言葉を重要視していたように、自分たちの人生には学ぶことが必要不可欠で、人と会話する時、社会で活動する時、歩いているだけでも何かを感じたり考えさせられたりすることがよくあり、その日常から自分で学んだことを生かして明日の自分に繋げたりする。そうすることで、成長することができるる。学ぶことを怠るのは自分自身を劣化させてしまうことになる。この講義で、SDGsの本来の意義や「学ぶ」という本当の大切さの意味を考えることができた。(神田外語大学・1年生)

◆SDGsという単語は最近よく目にも耳にもしますが、具体的な内容までは把握できていなかったのでこの講義を受けて、より深くSDGsについて勉強しようという気持ちになりました。そして、ただ自分に当てはまる目標を見つけて満足するのではなく、内容をきっちりと理解した上で日々の生活の中で意識して取り入れていく必要があるのだと学びました。(関西外国語大学・4年生)

◆大学の講義でSDGsについて学ぶ機会はあったが、今回の講義のように細部まで調べることはなかったから深いところまで勉強することができた。SDGsの取り組みを行っていると表明する企業などが今回学んだ取り組みまでの過程を踏んでいるのかどうかを確かめることが、その企業の信頼度にもつながってくるだろうと感じた。今回の講義を通して、大学内での授業で学んだことを自ら発展させる必要があることを改めて感じた。外国語の習得のようにインプットに加えてアウトプットすることが真に理解する段階になると思った。(関西外国語大学・2年生)

◆この講義を通し、EDGsという言葉をはじめて知りました。SDGsは近ごろ企業でもよく取り組まれているので知ってはいたが、SをEに変えたEDGsはあまりなじみがなくどんなものなのだろうかと思いました。EはEducationで、教育の在り方について誰一人取りこぼさないような、子供たちへの教育についての取り組みであることを講義を通して学びました。(京都外国語大学・1年生)

9/3・4(水・木)	ボランティア学と五輪　ボランティアからの人間力
講師	神田外語大学　体育・スポーツセンター　准教授 スポーツ通訳ボランティア推進室 **朴　ジョンヨン**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆朴先生から、自分の夢と一言で言っても、なりたい腎臓となりたい職業は別物だと学びました。ジンザイと言っても4種類もあり、なりたいのは人財ですが、今の自分は一番いけない人罪ではないかと思いました。学生のうちに自分を知るべく、得意なことや好きなことなどの基本的なことを理解しておこうと思います。グローバルとナショナルの違いが次元の違いであることも知りました。主体性を確立するボランティアは、仕事と遊びの間にあるという意見も納得しました。(神田外語大学・2年生)

◆人生は、長距離でもあり、ハードル走でもあると教えたいただきました。今やるべきこと、やらなければならないこと、できることを見つめ直し、一つ一つのハードルを超えればゴールに近づくにつれて加速できるというお話を聞き、先を見ることも大事ですがまずは今、やるべきことを精一杯し積み重ねることでゴールが見えてくると思いました。(長崎外国語大学・2年生)

◆朴先生の講義を受けて、私達は、まだ若いとはいえ人生には時間の限りがあるということを再確認しました。まだ若いから、まだ完璧ではないからなどという理由で挑戦をせずにいるのはもったいないと強く思いました。何事にもバイタリティが最も重要であるということを教えて頂きました。諦めずに挑戦し続ける気持ちと力を持ち続けることが大切だと感じました。(関西外国語大学・1年生)

◆スポーツとは遊戯であり闘争であり激しい肉体運動であるため誰かに強制されて行うものではない。そしてリベラルアーツとは人間とは何かを考える学問である。ホイジンガが唱えた「ホモ・ルーデンス」という説には「人間には生の労働の他、遊戯したい基本欲求が存在し、その欲求が典型的に表れているのがスポーツである」と言っている。21世紀現在スポーツの楽しみ方は様々でどんな人でも何かしらの形で関わり楽しむことができる。(神田外語大学・1年生)

◆実際に通訳ボランティアに参加された方からお話を聞かせていただけて良かったです。学生のころから東京駅で働くなど様々な経験をされていたので私はまだまだだなと思ったのと同時にもっといろんなことにチャレンジしていきたいと決めました。これから頑張るモチベーションになったし積極的に通訳ボランティアに参加したり英語を話すチャンスをつかみたいです。(京都外国語大学・2年生)

◆朴先生が講義の際に引用しておられたスティーブ・ジョブズの"I would trade all of my technology for an afternoon with Socrates."という言葉に衝撃を受けました。私たちが天才だと称するような偉人でさえ、さらに昔の先人に影響を受けています。今あるこの世界の、スポーツの土台となるものを築き上げた人々。確かに、すべてを費やしてでも話がしたいというスティーブ・ジョブズの気持ちが分かり様な気がします。(神戸市外国語大学・1年生)

◆ボランティアを行うにあたり、私たちには、相手のことを考え、自発的に行動する気持ちが必要不可欠であることを再確認できた。また、国際的なボランティアを行う際には、自国の文化を背負っているという認識を持たなければいけない。自国の文化をしっかり身に付けた上で、海外の人と交流することが大切であると感じた。ボランティア精神と日本の文化を見直す良い機会となった。(名古屋外国語大学・2年生)

◆4つの「じんざい」があったが、人材ではなく、人財になるよう努めたいと感じた。人財とは、自分で考えて成果を上げられる人のことである。それに対して、人材は言われたらやれる人のことである。指示待ち人間にならず、何を優先すべきなのかをよく考えて行動していきたい。世界のどこへ行ってもやりたいことが出来るように、語学力や知識を身に付け、日本人としてのアイデンティティを持ちながら生きていきたい。(長崎外国語大学・2年生)

9/3・4(木・金)	おもてなし異文化コミュニケーション
講師	神田外語大学 キャリア教育センター 客員教授 筑波大学 客員教授 **江上 いずみ**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆コミュニケーションをとるときに重要なのは、雰囲気と言葉選びが重要だと思った。容姿にしても髪を束ねることや、スーツの着こなしなどで相手への印象や評価が全く変わってしまう。言葉に関しても、丁寧に言うことだけではなく、その時に言い回し、また行動をともなった良いサービスをすることで、相手に不快感を与えることなくスムーズなコミュニケーションをとることができる。そうすることで、お互いにいい関係をつくることができ、いい循環をもたらすと思った。私自身も通訳ボランティアとして、多くの文化の人と接する機会が必ず来る。その時に失敗しないためにも、今のうちから練習しようと思った。(神田外語大学・1年生)

◆一番早く普段の生活に生かすことができている知識はこの講義で学んだことでした。始終どこかわくわくするような気持ちでこの講義を受けた私は、この講義が終わってすぐ自分の変化に気づきました。それまでの講義は他の生徒の皆さんを窺って、皆さんがZOOMを退出し始めたのを確認してから静かに退出していたのですが、この講義で「おもてなし」を学ぶと、「ありがとうございました」と言わずにはいられない気持ちになり、もちろん実践しました。その後もアルバイト先ではマニュアルにある「少々お待ちください」の前に「すぐに確認致します」の一言を言うようになりました。こうする中で、「プラスαの言葉をかけて、相手の気持ちになって行動すること」という意義をもつおもてなしが、する側にとってもいかに素晴らしいものかを実感しています。一日本人としておもてなしに誇りをもつことのできる人になりたいと思います。(名古屋外国語大学・1年生)

◆私はおもてなしについてここまで深く考えたのは初めてでした。おもてなしとサービスは同じことだと思っていましたがこんなにも深い意味の違いがあるのだと気付き、使い方を気をつけようと思いました。テレビにも出ていらっしゃる先生にお話を聞けたのはとても貴重な経験だったと思います。また、私は将来何かしらの形で海外の方におもてなしをする職に就きたいと考えているので、こちらの分野についてはもっと深く学びたいと思いました。(関西外国語大学・1年生)

◆今まで「おもてなし」という言葉を普通に使っていましたが、語源について学習したのは今回が初めてでした。おもてなしには二つの語源があります。「心を以って行為を成す」という意味と「表裏なし」という意味です。語源を理解することによってより素敵な言葉だと感じ、実際により心を込めたおもてなしの接客ができると感じました。そしてベテランのCAの方は本当に見た目から話し方、礼儀作法まですべて丁寧で美しく、本当に吸い込まれるように授業を聞き入っていまいました。グローバルに活躍するからと言って英語だけ堪能で、間違った日本語を使用していたら意味がないということも改めて実感しました。日本人としての礼儀作法もまだまだ知らないことがたくさんあると感じ、反省しました。グローバルに活躍するために英語や異文化理解はもちろんですが、日本人としての常識やおもてなしの心もこれからはより深く学んでいきます。(関西外国語大学・4年生)

◆ボランティアにおいてだけではなく、日頃の生活から就職活動、そして社会人になってからのマナーを学ぶことが出来ました。僕はこれからますます就職活動が始まっていくので、特にその分野が印象に残りました。面接における立ち姿では後ろで手を組んではいけないことや、面接会場に入る前にコートを脱ぎ、中表でたたんでおくなど、勉強になりました。さらに、普段身近に年上の方に使っている「お久しぶりです」や「了解しました」といった言葉は、間違った敬語であることに驚きました。「ご無沙汰しております」や「かしこまりました」といったように、正しい敬語を使いこなせるように日頃から意識していきたいと思いました。(京都外国語大学・3年生)

◆おもてなしの心や、相手に失礼に当たらないコミュニケーションのとり方を具体的に教えていただきました。特に印象に残ったのはグローバルマナーと異文化コミュニケーションです。両手の握手はおねだりの意味を持つということや、訪問先や面接時でどの位置に座るかなど、今まで知らなかったことを沢山学びました。通訳ボランティアを含め国際交流において欠かせない講義でした。将来海外の方と接する際に気をつけたいと思います。(神田外語大学・1年生)

9/3・4(木・金)	プロから学ぶスポーツ通訳・翻訳技法
講師	通訳・翻訳者 (NHK、CNNなどで活躍) **中曽根 俊**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義では、スポーツ通訳として活動するにあたって重要なことは何かを学びました。私は、日本語のホームランという言葉の英訳がたくさんあることにとても驚きました。また、監督のテンションに合わせて通訳したり、独特な表現を調べる必要があったりと、スポーツ通訳の大変さを学ぶことができました。さらに、母国語でも単語を調べることや、正しい日本語を使うことを意識することも大切であると感じました。私は、試合結果についての会話の時に必ず用いられる◯勝◯敗などを英語で表現する時に、すぐ言い方が思いつきませんでした。このような表現を当たり前に英語で表せるようになったら、外国人の方ともスポーツについて語れるようになると思いました。自分の興味のあるスポーツの単語帳を作ったり、もっと調べたりして、英語でも語れるようになりたいと思いました。(神田外語大学・1年生)

◆今回、実際に通訳としてスポーツの世界でご活躍されている中曽根先生の講義を受けることができ、スポーツ通訳の複雑さやその重要性を知ることが出来ました。「スポーツ通訳」というと、私は野球のヒーローインタビューで外国人選手の隣に立ち、通訳をされている方々をイメージしていました。スポーツ通訳は、私がイメージをしていたようなお仕事は勿論、スポーツ中継番組においての通訳や、国際大会でのオフィシャル通訳として、大会の運営に携わることもあるのだそうです。このお話を伺っただけでも、非常に奥の深いものだと思いましたが、スポーツ通訳としての心がけについてのお話をしてくださったときには、その複雑さにとても驚きました。スポーツ通訳は、競技特有の言い回しや単語などをきちんと把握し、通訳を行う両方の言語で的確に使えるようになり、尚且つそれぞれの単語や言葉の先にある文化や習慣を知らなければなりません。例えば、英語にはホームランを表す言葉が10種類以上もあります。スポーツ中継番組では、外国語で行われている海外大会の実況を的確に通訳しなければなりません。もし、ホームラン=Home Runとだけしか認識していないと、他の表現が出てきたときに素早く訳すことが出来ません。数多くの現場を経験してこられた中曽根先生は、今での単語帳を持ち歩き、知らない表現は辞書を使って調べるとお話されていました。この講義で、学び続けることも通訳の責任の一つなのだと痛感しました。(関西外国語大学・3年生)

◆中曽根先生のプロから学ぶスポーツ通訳・翻訳技法の講義では通訳や翻訳をするにあたって大切なことを学びました。通訳のプロである先生でさえもわからない英単語がたくさんあって、しかもわからない単語の単語帳を作っているときいて驚きました。だから、先生より何十倍も英語力のない私は絶対に単語帳を作らなくてはいけないなと思いました。後期の授業でわからない言葉に直面したときにメモをして、自分の単語帳を作っていきたいなと思います。また、正しい通訳・翻訳をするにはまず自分が正しい日本語を使うことが大切ということを学びました。確かに自分の母国語もしっかり使えない人が通訳や翻訳をするのには無理があるため、これからまずは自分の話す日本語の正しい使い方に気をつけたいなと思います。(神田外語大学・2年生)

◆日本が誇るべき文化でもあるおもてなしの心を学んだ授業だった。おもてなしとは、表裏なく見返りを求めない対応であり、サービスとは異なる。つまりお金の概念がないのがおもてなしであり、そうした部分はボランティアの概念とも一致する。笑顔、アイコンタクト、言葉遣い、身だしなみ、挨拶など授業を受ける前には知らなかったルールがたくさんあり、すごく勉強になったし、就活にも活かせる授業だった。また、通訳ボランティアをする上では日本ではマナーの良い対応であっても海外ではタブーとされる事もあるため異文化理解も大切だということを学んだ。(京都外国語大学・3年生)

◆チーム監督の代弁者として、通訳だけでなく状況によって感情や語彙を変化させていると思いました。通訳士の難しい所として自分のものの見方、考え方は含まず正確に言い換えなければいけないが本当に難しいなと実感しました。自習ノートを見せてもらった時もホームランの表現がいくつもあって研究を積み重ねてこられたんだなと思いました。まだまだ言語は成長段階であり、上達すると海外の人との会話が心から伝わり楽しめるのかとモチベーションに繋がりました。(神田外語大学・4年生)

9/3・4(木・金)	通訳ボランティア概論
講師	神田外語大学 教授 国際コミュニケーション学科専攻長 **小坂 貴志**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆ボランティアと通訳は利己性と利他性を掛け合わせており、相手の為にもなり自分の為にもなる良い活動なのだと学びました。また、派遣された後にどう動くかによって得るものも変わってくるので、もし自分の役割が無くても、自ら動ける人になろうと思いました。また、グループワークで同時通訳をして、相手の話を的確に伝えるためにいかにメモを取ることが大切かを体感しました。(名古屋外国語大学・1年生)

◆実際に同時通訳の練習をしました。大学の体験授業で同時通訳が行われている場を見たことがあったので、何となくは知っていましたが、初めて実際に挑戦してみることが出来て嬉しかったし、楽しかったです。通訳する時の注意として、自分が担当していない言語は聞かないというのがありましたが、話を聞かないでおくという不安があり、聞いて通訳してしまいました。今回は、簡単な話しかしていないので支障はなかったけど、実際の通訳となると情報量も多くて、聞いてると混乱するんだろうなと感じました。(京都外国語大学・1年生)

◆この講義では、実際の通訳ボランティアでの体験談から自分が実際にこのような場面に遭遇したら、どのように行動するか、などグループワークを通して考えたり、実際に通訳はどのように行うのか、シュミレーションをしました。
この講義を通して感じたことは、通訳ボランティアは受動的かつ能動的な姿勢の両方をかけ合わせて行っていかなければならないと思いました。ボランティアでの活躍度・貢献度を感じられるのは、自分がどれだけ大会運営や選手のサポート・試合を観に来るお客さんのサポートをより多く、そして積極的にできたか、だと思います。授業で挙げられていたケースにもあったように、通訳ボランティアと言えるのか?と思うような仕事を任されたり、特に仕事内容を支持されない現場に配属になった際にも、自分やメンバーと一緒に周りをみて今、何ができるのか、ボランティアという立場から選手にしてあげられることは何かを、自分なりの考えに基づいて行動することで、自分に足りないものを発見できたり、逆にこのような場面でも上手く対応することができた、と自分に自信が持てるようになると思います。このような思いもしない場面に遭遇した時の対応の仕方は人それぞれですが、考えすぎて躊躇してしまい、結局何もできない、というようなことには絶対になりたくないので、授業で紹介されたこと以外にも、通訳ボランティア経験者の体験談などを読んで、自分ならどうするかを考えていきたいと思います。(名古屋外国語大学・2年生)

◆同時通訳と逐次通訳の違いについて深く理解する事ができた。授業の中で通訳を体験できる時間を作ってくれて、今まで通訳の立場で英語を使うことがあまりなかったので貴重な時間だった。私達が話した内容はとても簡単な内容だったけれど、実際に通訳する方はネイティブの早くて難しい内容を理解して瞬時に違う言語で伝えているので、改めて通訳の方々は高い言語能力を持っていると思った。自分自身も通訳ができるようにより高度な言語能力を持ちたいと思った。(関西外国語大学・3年生)

◆通訳には、話者と通訳者が同時に話す同時通訳と、話者と通訳者が交互に話す逐次通訳があると学びました。講義ではグループになって逐次通訳をしたのがとてもいい経験になりました。簡単な会話でも、言っていることを確実に通訳するのは難しく、感情なども含めて伝えるというのはかなり難しいことなのだと分かりました。これが色んな訛りも含めた言語だったり、専門用語とかも入ってくるとさらに努力が必要だと思いました。しかし、通訳できた時は満足感が得られるのでこれからもっと、英語や様々な言語に触れていきたいと思いました。(関西外国語大学・1年生)

◆一番印象的だったのは通訳ボランティアは「中動」的な活動であるということでした。話者が話すことを訳すことが役目であるが故に受動的になる通訳と能動的にならなければ何にもならないボランティアの要素を合わせたものであるから、という説明に納得しました。通訳の実践では、簡単な文章であったのにも関わらず、英語と日本語を逆に話してしまったり、普段の共通語同士での会話であればあり得ないような間違いをししたことで、通訳がいかに難しいか、練習が必要であるかを痛感しました。(神戸市外国語大学・3年生)

9/3・4(木・金)	世界の英語と文化
講師	神田外語大学 英米語学科 教授 **矢頭 典枝**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆いろんな国で英語が話されたり、英語が話せることがとても大切になっている中で、それぞれの国の特有な発音を解説しながらしっかりと聞けてとても面白い講座でした。実際に、それぞれの国の特徴を意識しながら発音できて、いろんな国の英語にもっと触れて見たいなと思いました。国際ボランティアなどは、いろんな国の方がくると思うので、それぞれの国の英語の特徴を知っていることはとても大切なことだと思いました。また、特徴を知っていることやそれをボランティアの場で生かせれば異文化理解にもつながるのかなと思いました。(神田外語大学・1年生)

◆言語学の授業をとっていたので、こんなわかりやすい英語モジュールがあったならもっと早く知りたかったと思いました。国によって少しずつ異なる英語を学ぶことで自分のなじみのない国の人が話す英語でも少しは聞き取れるようになっていければいいなと思いました。話が通じやすいに越したことはありません。これから夏休み期間も少しずつ勉強していきたいと思います。小中高の英語教育では感じられなかった「英語は生きている」「英語は時代とともに変遷していく言語」であるという事実を改めて認識することができました。ありがとうございました。(神戸市外国語大学・1年生)

◆今回の授業を通して、世界の英語には本当に多くの種類があることを初めてしりました。外国語大学に通っているのに、自分の知識の乏しさを恥ずかしく思いました。世界には多くの人がいるからこそ、様々な言語、英語1つにしても、多くの発音、更に、日本でも方言があったりなど、言語は奥深いものだと実感しました。外国語大学に通っているからこそ、言語の謎、面白さにどっぷりとつかりたいと思います。(関西外国語大学・3年生)

◆英語は英語でも国によってアクセントが変わり、オリンピックは世界各国からたくさんの人が集まるためその国々のアクセントに対応しなければなりません。神田外国語大学と東京外国語大学が共同で作られた英語モジュールは非常に興味深く、役立つもので、この講座を受けないと存在を知ることさえできませんでした。私自信インド人の英語が聞き取りにくいなと思っていました。その理由としてそり舌音の使用があることを知ることができました。9言語のアクセントを同じフレーズで聞けたところ、またGAとRPのたくさんの発音の違いをしれたところが興味をそそり、もっと学びたいと思いました。(関西外国語大学・4年生)

◆もともと、国による英語の発音の違いや英語以外の言語にも興味があったため、矢頭先生が教えて下さった言語モジュールは非常に為になった。実際に授業中に一緒にビデオとスプリントを見ながら様々な国の英語の特徴について解説してくださったり、言語モジュールの詳細な使い方を教えてくださって、とても勉強になった。これから、言語モジュールを有効活用し、様々な国の英語の特徴や副専攻のスペイン語、興味はあるがまだ手がつけられていなかった言語も学習していきたいと考える。(神戸市外国語大学・2年生)

◆私は、アメリカ英語とイギリス英語の違いに関しての、多少の知識しか持っていなかった。そのため、この講義を通して学ぶことが初めてのことばかりだった。特に印象的だったのが、オーストラリア英語とシンガポール英語だ。オーストラリア英語やシンガポール英語は、その国特有の表現があったので聞いていて興味が深まった。また、インド英語のWとV、DやTの発音方法が非常に難しく感じた。私の家の近所にはインド人が多く住んでいる。そのため、これからはインド英語に耳を傾けていきたいと思う。世界の英語について詳しく触れることで、今まで以上に関心を深められたと思う。講義中に紹介があった、「世界の英語モジュール」を自分でも調べ、活用していきたい。今回学んだことをこれからの学習につなげていきたいと思う。(神田外語大学・1年生)

◆英語は国によって口癖や言い回し、アクセントなど異なる点が非常に多くあることに大変驚きました。アメリカ英語とイギリス英語は同じ意味の単語でもアクセントやスペルが異なることは知っていたのですが他の、オーストラリアやインド、フィリピンなど各国で話されている言語は本当に同じ「英語」という言語なのかと疑いたくなるような違いで戸惑いました。しかし、この違いは非常に面白いと感じ、さらに知りたいと思いました。新しい言語を学んだような感覚になり、非常に楽しかったです。(名古屋外国語大学・1年生)

9/3・4(木・金)	医療専門用語と通訳技法
講師	医療英語講師鍼灸マッサージ師教員 「鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック」著者 **大饗里香**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆医療専門用語をこの講義を通して多く教えていただいて単語力が身についたと思います。オリンピックのボランティアでの医療専門英語は必要になってくるなと学びました。通訳をするとき、医療専門用語を知っていることがスムーズに会話できるし安心してもらえるのではないかと思いました。この講義を通してもっと単語力を身につけようと思いました。(関西外国語大学・2年生)

◆医療通訳の際には、立ち位置、守秘義務、宗教・慣習・文化の違いなど、気をつけなければならないことがたくさんあることがわかりました。医療通訳に関する英語表現を教えていただきましたが、知らないものがたくさんあり、医療通訳の難しさを実感しました。今後ボランティアに参加した際に何らかの形で役に立つかもしれないので、今回教わった表現を自分のものにしたいと思います。(神田外語大学・2年生)

◆医療通訳という仕事があることを初めて知ることができました。専門的な用語であるため、とても難しく感じました。また、現在のコロナウイルスのように新しい用語が多く出てきて、それに伴い医療に関する知識も増やさないといけない大変さを感じました。命に関わることであり、とても責任を感じる仕事ではありますが通訳として人のためになる役割という立場の重要性を感じました。今後、私が海外に住むことや旅行に行く際には今回学んだことを忘れないように、メモしていきたいなと思います。(関西外国語大学・4年生)

◆世界の英語モジュールを使って様々な国で話されている英語の違いについて学んだ。発音レベルの違いのほかにも、アメリカなどでよく言うcookiesを同じものでもイギリスではbiscuitsと呼んだりなど、単語レベルでの違いや、綴りの違いなど興味深い発見が沢山あり、これから個人の学習ツールとしても使っていこうと思った。(神戸市外国語大学・2年生)

◆医療の現場では、患者の様態を医者が正しく汲み取ることが患者の病気の治療に役立つ。これを怠っていると、間違った治療をしてしまい、命の危険に繋がるので、正しく自身の様態を伝えるためにも学習していきたい。(長崎外国語大学・2年生)

◆医療関係のことを学ぶことは初めての経験だったのでとても面白かったのと同時に、聞いたことも見たこともない単語がたくさん出てきて、知識量の多さに驚いた。今まで外国人と医療についての話になったことがなく、自分自身も海外で病院に行ったことがなかったため医療英語の重要さがわかっていなかった。この講義でいかに医療通訳が重要な役割を果たすのか知ることができた。自分にとって新しい観点で通訳を考えることができ、とても面白い講義だった。(名古屋外国語大学・4年生)

◆大饗先生の講義では、医療通訳の難しさを学びました。医療専門用語が難しいのはもちろん、正確性・中立性・守秘義務が伴うことが、私にはちょっと耐えられないなと思いました。正確性が求められるゆえに、自分が分からなかったことは、プライドを捨てて自分の能力では無理だと伝えなければならなかったり、依頼主（患者）さんに意見を求められても、「自分は医療者ではないので答えられない」と中立な立場でいなければならなかったり、さらには、患者の親類や自分の家族にも、患者さんのことを話してはいけないだなんて、すごく大変な責任を伴う仕事なのだなと感じました。このほかに、この講義でコロナ感染症に関する用語を学ぶことができて良かったです。今回の講義で学んだ用語をしっかり覚えて、もし使う機会があった時に使えるようになりたいと思いました。(神戸市外国語大学・1年生)

◆実用的な医療専門用語を知ることができて良かったです。私はオーストラリア留学中にバスケ部に所属していて、選手のケガを保健の先生に伝える役割を果たしていたので、今回の授業を通して、ケガについての様々な用語を知るごとに「こんな伝え方があったのか」と感心しました。通訳者として常に相手に寄り添う姿勢を見せる必要があるという心掛けも学ぶことができて良かったです。素晴らしい講演をありがとうございます。(関西外国語大学・4年生)

9/4(木)	グローバル化と音楽
講師	神田外語大学　ボランティアセンター 米国Berklee　Coollege of Music卒後用。 2005年～2008年島村楽器　ミュージックスクールギター卒業 **吉原　聡**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆音楽と言語、このつながりを考えたこともなかったので興味深いテーマでした。人気の出る曲には共通点があり、昔は5音階しかなかったということも知りませんでした。私は、複言語で中国語を専攻していますが、日本語にはない声調が非常に難しいと感じていました。この講義の中で中国語のように声調がある言語は、音の高低を利用して練習すれば発音できるようになるということに非常に興味を持ちました。初めて見た単語はまだまだ上手く発音できないことが一度この方法でやってみようと思います。また、音楽は人を元気にしたり、いろいろな力を持っているなと感じました。使う音階によって、明るい曲になったり、おとなしい寂しい感じの音楽になったり音を効果的に使うことでいろいろな音楽を作れるとうところが、音楽の魅力であると改めて気が付きました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆まず何よりも記憶に残っているのは、聖者の行進がお葬式の曲だということです。あんなアップテンポな曲が私の中でお葬式は日本のお葬式のような暗くて黒いイメージがあったので真反対な曲がお葬式の曲だと知り、驚きました。こういった点から私も各国や地域の音楽から文化や環境が見えてくると感じました。講義の最初の方でもありましたが、私も前々から音楽は世界共通のコミュニケーションツールだと思っています。言葉がなくても楽器や歌声で人の感情を動かすことができたり息を合わせたり音楽という観点からコミュニケーションや文化・環境を知るこの講義はすごく楽しかったです。(長崎外国語大学・3年生)

◆元々、最初からどこの国にもドレミファソラシド、があったのでは無くそれぞれの国に特有の音階があったことに驚いた。さらにそれが国の特徴も表しているということも知り、音楽と国の文化はとても関わりが深いと思った。また、ちょっとした音の高低で感じ方が変わってしまうことを学び、通訳をするときは、それぞれの感情を汲み取って正確に伝えられるようにしたいと思った。他にもプレゼンテーションをするときは、できるだけフラットを意識して話すと、落ち着きや説得力が増すことも知ったので、意識していきたいと思った。(名古屋外国語大学・2年生)

◆去年留学先で誕生日を迎えた時に留学先の友達から歌って祝ってもらったり、一緒にカラオケに行って歌ったりしたのを思い出し、歌は国を超えて人をつなぐことを実際に体験した私にとって、音楽は世界共通のコミュニケーションツールという言葉はその通りだなと思いました。またグローバル人材になるために共有(聴く、相手を知りたいと思って一度受け入れてみる)や共感(互いの文化や考え方を尊重し合う、共通点から理解を深める)の考え方も大切にしたいと思います。バンジョーの演奏はじめて聞きましたし、音楽の変化に合わせて当時の音楽を実際に演奏してくださったので楽しみながら理解し参加することができました。(神戸市外国語大学・3年生)

◆グローバル化と音楽も結びつきがはじめは思いつきませんでしたが、言語だけではなく音楽で世界中の人と楽しんだり、共感できたりするということは素晴らしいことだと改めて感じました。自分が留学した時のことを思い出すと英語がうまく話せなかったにも関わらず、共通の音楽の趣味があったおかげで現地の学生と仲良くなれたことを思い出しました。他にも日韓関係が悪化していても韓国の音楽に関して言えば日本との関りは大きく、日韓関係にの悪化による影響が受けていない唯一の繋がりだと思います。そういった意味も含めて音楽とグローバル化は大きな結びつきがあるのだということを学びました。(名古屋外国語大学・2年生)

◆吉原先生が演奏されたチャイムから講義が始まってコロナで学校に行けていないのでとても久しぶりにチャイムを聞いたなと思いました。そして世界の音楽の歴史や、5音階というのは同じであるが、その国や地域によって異なっていて、その場所の文化などと大きく関わりを持っているということを知りとても面白いなと思いました。また、音楽は言葉が分からなくてもリズムなどで通じ合えることができる一つのコミュニケーションであることも改めて学び、音楽の大切さを知ることもできました。(京都外国語大学・3年生)

◆この講義で最も印象に残ったことは、音楽は言語と違って国境を超えて誰でもコミュニケーションを取れるツールだということです。私はこのことにとても感動しました。言語を学ぶことだけが、国境を越えて世界中の人々とつながる手段だと考えていましたが、音楽をはじめとする芸術にも可能性があることが知れたことが、この講義で最も大きな学びになりました。(関西外国語大学・2年生)

9/4(金)	アスリートから学ぶ人間力
講師	2012年ロンドンオリンピック 男子フルーレ団体銀メダリスト **千田　健太**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義で私はオリンピック選手の想いの強さを知ることが出来ました。特に驚いたのは500日間も合宿に行き、オリンピックのために練習するということです。今まで私は、オリンピックは他の世界大会とほぼ同じもので、世界大会との違いは色々な競技が含まれているだけだと考えていました。しかし、先生の話しを聞き、オリンピックはとても特別なものでアスリートの人々の1番の目標なのだと学びました。この特別な舞台でボランティアをして、大会を支えたいとより強く思うようになりました。また、アスリートの人々は強い想いでオリンピックに参加しているので、来年のオリンピックがとても楽しみになりました(神田外語大学・1年生)

◆アスリート選手目線からのオリンピックの会場の話や体験談を聞けてとても良い機会になった。特に印象的であったのは、千田選手がロンドンオリンピックで銀メダルを獲得する1年前、地元が東日本大震災で被災し海外遠征から帰国した話だった。”地元を元気付けたい” ”震災で亡くなった恩師のために頑張りたいという思いがメダルに繋がったのだと感じた。自分のために何かをするのは当たり前で、自分以外のために何かを一生懸命取り組むのは素晴らしい事だと改めて感じ、また自分もそれができる人になろうと思った。これからいろいろな事に挑戦していく上で、千田選手のお話に勇気付けられた。(神戸市外国語大学・2年生)

◆実際にオリンピックに出場し、そこでも良い成績を取ったことのある方の体験談を聞いて一つのことにこんなにも熱心にできるのって本当に難しくて楽しいものなんだと思いました。また、千田さんは決してフェンシングに対して恵まれた体格でもなく、更に利き手とは逆の手でフェンシングをしてきてすごく努力なされたんだと尊敬しました。そしてオリンピック前に故郷が東日本大震災で襲われ、友人もなくなってしまったにもかかわらず自分のやるべきことをやりきっていて、千田　健太さんの精神力はものすごいんだと思いました。オリンピックで準優勝し、その次のオリンピックに参加することで最後は自分の納得する形でプレイヤーとして美しい終わり方をして感動しました。私も千田さんのように「最後までやり切る」力が欲しいです。(名古屋外国語大学・1年生)

◆この講義を受けて、フェンシングという競技がどのような競技なのかを知ることができた。まず初めに驚いたことは、3種類あるということだ。私は、ただ単に相手の上半身に突くだけだと思っていた。フルーレ、エペ、サーブルのこの3つの中で最も驚いたのは、サーベルである。なぜなら、私の中のフェンシングのイメージと全然、違っていたからだ。動画を見たとき、正直、剣道のようにすぐに一瞬で終わってしまったから、よくわからなかった。こんなにも、はやく終わるとは思わなかった。フェンシングのルールや3種類あるということが知れてよかった。(京都外国語大学・1年生)

◆失敗をしても、その経験が次の新しいことに活かせるということを聞き、失敗を恐れずに挑戦することが大切だと考えた。また、会場や選手村の写真、実際の試合の映像を見てオリンピックの雰囲気を感じることができた。さらに、他の人と比べ不足している部分を自分の武器である粘り強さで補ったという話を聞き、自分の強みを見つけることも必要であると分かった。(神田外語大学・2年生)

◆実際にオリンピック選手として活躍されていた千田さんのお話を聴いて、自分の好きなことを大切にし、目標に向かって行動し続ける姿勢に大きな刺激を受けました。また、世界各国の選手と比較して小柄な体系であることをネガティブに捉えず、それを活かしているという点で、考え方によって結果は大きく変わるのだと感じました。とても貴重なお話を聴くことができ、光栄です。本当にありがとうございました。(関西外国語大学・1年氏江)

◆実際にオリンピック選手として活躍されていた千田さんのお話を聴いて、自分の好きなことを大切にし、目標に向かって行動し続ける姿勢に大きな刺激を受けました。また、世界各国の選手と比較して小柄な体系であることをネガティブに捉えず、それを活かしているという点で、考え方によって結果は大きく変わるのだと感じました。とても貴重なお話を聴くことができ、光栄です。本当にありがとうございました。(京都外国語大学・3年生)

◆自分の中で最も印象的な講義となった。フェンシングがサーブル、エペ、フルーレの三種類からなるということや、実際に動画を見てどのようなスポーツかということを学べたのも大きいけれど、それ以上にアスリートとしての志、生き方などなかなか知ることのできないことを個人の体験談などを通して勉強することができた。スポーツ選手としてもだけれどもそれ以上に人として素晴らしい方だと感じた。(名古屋外国語大学・2年生)

◆オリンピックでメダルを取った人でもその前にいくつもの苦難があってそれを乗り越えていて、その上、計り知れない努力をしているということがとてもすごいと思った。私も千田選手のように何事にも諦めずに頑張りたいなと思った。(名古屋外国語大学・2年生)

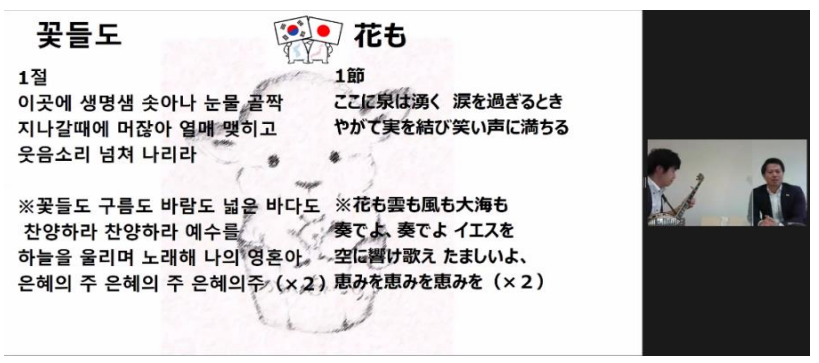
5. セミナーの様子（写真）

▲宮内学長のご挨拶から始まりました。

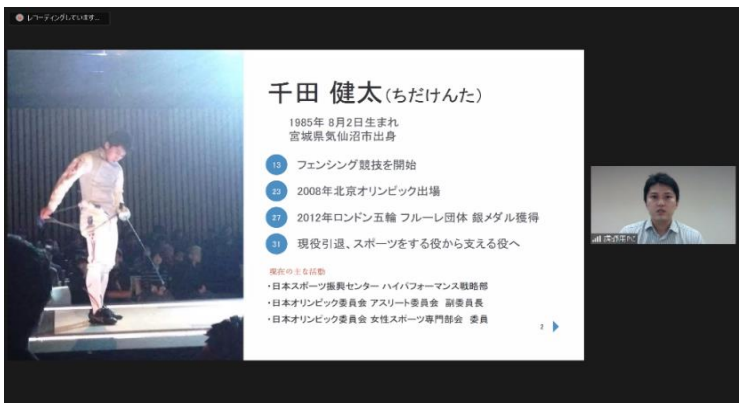
▲スポーツ庁の鈴木大地長官よりご挨拶をいただきました。

▲石井先生の講義ではSDGsの知識をさらに深めました。

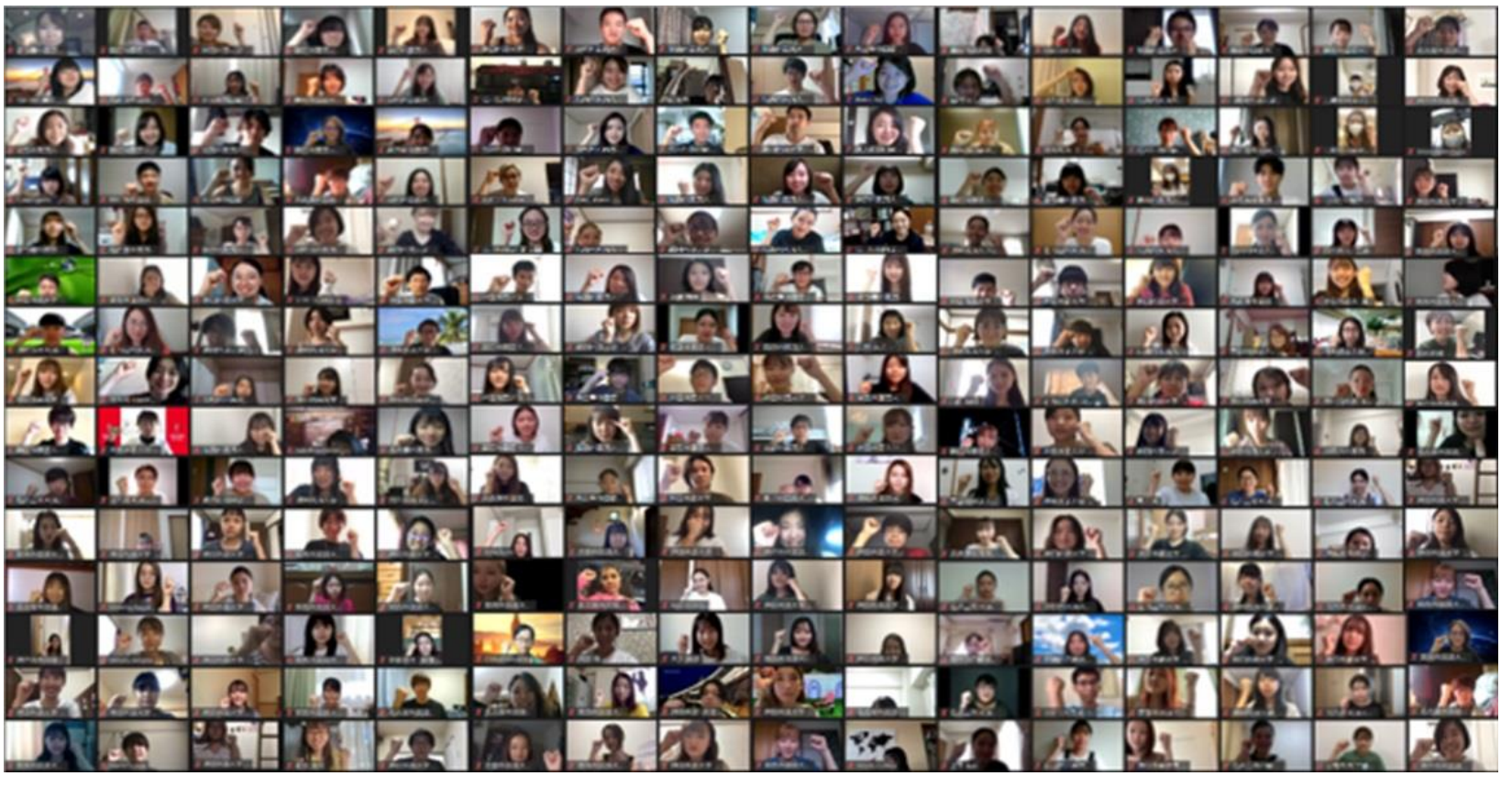
▲プロの通訳者中曽根先生から通訳翻訳技法を学びました。



▲2日目の懇親会では朴先生と吉原先生によるデュエットで盛り上がりました！



▲3日間のトリは千田選手にご講演をいただきました。



▲フェンシング銀メダリスト千田選手による3日目最終講義後、みんなでガッツポーズ！3日間お疲れさまでした！